

ピアノ・**牛田智大**

Tomoharu Ushida, Piano

© Aiga Terasawa

指揮・**梅田俊明**

Toshiaki Umeda, Conductor

© K.Miura

東京交響楽団

「アートキャラバン」川口公演

～オーケストラと心に響くひとときを～

モーツァルト: ピアノ協奏曲第24番 ハ短調 K.491

ベートーヴェン: 交響曲第5番 ハ短調 op.67 「運命」

2023年5月2日(火) 18:30開演 (17:45開場) 川口総合文化センター リリア・メインホール
全席指定: S席¥4,000/A席¥3,000 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。 (JR京浜東北線・川口駅西口直結2F)

■東響会員先行発売 4/14(金) *東響会員とは...①サポート会員 ②TOKYO SYMPHONY VISAカード ③定期会員の皆様です。 ■一般発売 4/18(火)

■お申込み・お問合せ

リリア・チケットセンター 048-254-9900

リリア・ネットチケット <https://lilia.or.jp/ticketinet>

TOKYO SYMPHONY チケットセンター 044-520-1511 [平日10:00~18:00 土日祝休み]

TOKYO SYMPHONY オンラインチケット <https://tokyosymphony.jp>
※各番別のお取扱いがございます



チケットぴあ <https://pia.jp/t/so/>

e+(イープラス) <https://eplus.jp/tokyoso/>

(チケットのご購入にあたっての注意事項) ※会場にて平熱と比べて1℃以上の高い発熱があることが計測された方や、発熱が続いている方はご入場をお断りいたします。 ※会場では常時マスクの着用をお願いいたします。 ※今後の状況によっては公演内容の変更や公演を中止する場合がございます。 ※チケットお申込み後の変更・キャンセルはお受けできません。 また、一度お申込みいただいたチケットは公演中止の場合以外は、キャンセル・払い戻しができません。

新型コロナウイルス感染拡大防止に、ご協力をお願いします。

*ガイドラインの変更によって、下記内容を随時変更させていただきます。





梅田 俊明(指揮)

Conductor: Toshiaki Umeda

東京に生まれる。5歳よりピアノを始め、井上直幸、新井精氏等に学ぶ。1984年桐朋学園大学音楽学部を卒業。86年同研究科を修了。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、コントラバスを小野崎充、ピアノと室内楽を三善晃の各氏に師事する。83、84年には来日中のジャン・フルネ氏にも学んだ。86年よりウィーン国立音楽大学指揮科に留学、オトマール・スイトナー氏に師事し、研鑽を積んだ。帰国後、89年12月より92年4月まで日本センチュリー交響楽団指揮者を務めた。90年4月より仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者に就任。92年4月より96年3月まで神奈川フィルハーモニー管弦楽団の指揮者の任も果たした。2000年4月より仙台フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者に就任。オーケストラの発展に情熱を注ぎ込み、2006年3月までその任を務めた。客演としては、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京都交響楽団、東京交響楽団、新日本フィルハーモニーを始め、国内主要オーケストラと長年にわたり共演を重ねている。2001年第1回、及び2004年第2回仙台国際コンクール(いずれもヴァイオリン、ピアノの2部門で開催)では、全ての協奏曲を指揮し、出場者、聴衆、国内外の審査員から絶賛を博した。06年には大ブームとなったドラマ「のだめカンタービレ」に、演奏及び指揮指導で参加し注目を集めた他、レコーディングにも参加。国内だけではなく、96年1月には南西ドイツ・フィルハーモニーとスロヴァキア・フィルハーモニーの定期演奏会に出演、いずれも好評を博した。的確な棒さばきと音楽に対する誠実な姿勢でオーケストラからの信頼も厚い。東京藝術大学非常勤講師として後進の指導にもあたっている。



牛田 智大(ピアノ)
とも はる

Piano: Tomoharu Ushida

2018年第10回浜松国際ピアノコンクールにて第2位、併せてワルシャワ市長賞、聴衆賞を受賞。2019年第29回出光音楽賞受賞。

1999年福島県いわき市生まれ。6歳まで上海で育つ。

2012年2月(12歳)、第16回浜松国際ピアノアカデミー・コンクールにて最年少1位受賞。以降、本格的に演奏活動始める。

2012年3月、クラシックの日本人ピアニストとして最年少12歳でユニバーサル ミュージックよりCDデビュー。最新CDは自身初のライブ録音となる「ショパン・リサイタル2022」。リリースしたCDは、2015年発売の「愛の喜び」以降、続けてレコード芸術特選盤に選ばれている。

シュテファン・ヴラダー指揮ウィーン室内管弦楽団(2014年)、ミハイル・プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管弦楽団(2015年/2018年)、小林研一郎指揮ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団(2016年)、ヤツェク・カズプシク指揮ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団(2018年)各日本公演のソリストを務めるなど、全国各地の演奏会で活躍。その音楽性を高く評価され、2019年5月プレトニョフ指揮ロシア・ナショナル管モスクワ公演、8月にワルシャワ、10月にはブリュッセルでのリサイタルに招かれた。

今までにNHK総合テレビ「プロフェッショナル 仕事の流儀」ほか様々な番組や媒体でその活動が紹介されている。

2022年3月、デビュー10周年を迎えて開催した記念リサイタルは各地で好評を博した。人気実力とも、若手を代表するピアニストの一人として注目を集めている。



東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

1946年、東宝交響楽団として創立。1951年に改称し現在に至る。サントリーホール、ミュンヘン・フィルハーモニーホール、東京オペラシティコンサートホールで主催公演を行い、文部大臣賞を含む日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。新国立劇場のレギュラーオーケストラを務めるほか、川崎市や新潟市など行政と提携した演奏会やアウトリーチ、「こども定期演奏会」「0歳からのオーケストラ」等教育プログラム、ウィーン楽友協会をはじめとする海外公演も注目されている。さらに日本のオーケストラとして初の音楽・動画配信サブスクリプションサービスや、VRオーケストラ、電子チケットの導入などITへの取組みも音楽界をリードしており、2020年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約20万人が視聴、2022年12月には史上最多45カメラによる《第九》公演を配信し注目を集めた。

近年は、音楽監督ジョナサン・ノットとともに日本のオーケストラ界を牽引する存在として注目を集め、《サロメ(演奏会形式)》は音楽の友誌「コンサート・ベストテン2022」で日本のオーケストラとして最高位に選出された。